

2022年
No. 60
夏号

Nakakita Smile通信

～マナーの処方せん～



中北マナーキャラクター
中北みどりちゃん

お盆のしきたり

お盆は、ご先祖様を供養する仏教行事です。お盆の間はご先祖様の霊が家に帰ってくるとされ、各家庭で、お迎えする準備をします。本来は、7月13日～16日の4日間ですが、7月は農繁期で忙しいこともあり、1か月遅れで行う「月遅れ盆」の慣習が生まれました。地域によって異なりますが、現在では大多数の地域が、8月13日～16日の4日間で行っています。



精霊棚(しょうりょうだな)



13日の朝、仏壇の前に小さな机を置いて棚に見立て、季節の果物・野菜のほか、キュウリで作った馬やナスで作った牛を飾って供養します。ご先祖様は馬に乗り、牛に荷物を引かせて帰ってくるといわれています。

迎え火



13日の夕方、家の門前で迎え火を焚きます。オガラと呼ばれる麻の皮をはいだ茎を燃やし、ご先祖様が帰ってくる「道しるべ」にします。野菜の馬と牛は頭を家の方に向けて供えます。

送り火

16日に送り火を焚いて霊を見送ります。ご先祖様の霊の帰り道を明るく照らして送り出すという意味があります。野菜の馬と牛の頭は外に向けます。有名な京都の「大文字焼き」は供養を受けた精霊が浄土へ帰って行くのを見送るかがり火です。また「精霊流し」や「灯籠流し」を行う地域もあります。

盆踊り

もともとは、年に一度、文字通り、お盆のとき、この世に戻ってきた精霊を供養するために踊ることを意味します。

盆踊りの原型は、鎌倉時代、時宗の開祖・一遍上人が広めた念仏踊りとご先祖様の供養が結びついたのが始まりといわれています。



お彼岸のしきたり

「彼岸」とは、仏教用語で「向こう岸」の意味です。仏教では、ご先祖様の住む極楽と、現世が交流しやすい時期とされています。

3月の春分の日をはさんで、前後3日ずつの一週間を「春のお彼岸」、9月の秋分の日をはさんだ前後3日ずつを「秋のお彼岸」といいます。彼岸には、お墓参りをします。また仏壇をきれいにして、故人が好きだったお菓子や花、あんでくるんだ餅を仏前に供えます。この餅は、春のお彼岸の場合は「ぼたもち(牡丹もち)」、秋は「おはぎ(萩)」と、それぞれの季節の花にちなんだ名前と呼ばれます。自宅で作る場合は、春は牡丹の花のように大きく、秋は小ぶりに形を整えるのがならわしです。



参考文献:日本人のしきたり、日本人礼儀作法のしきたり(著:朝倉晴武)冠婚葬祭常識辞典(主婦の友社)

お盆やお彼岸を通して、家族が集い、ご先祖様に感謝する気持ちを大切にしていきたいですね。

マナーインストラクター部HPです。ぜひご覧ください。
<https://www.nakakita-manner.com>

次回は10月発行予定です
お楽しみに♪

